【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	２年	教科書	改訂版　生物（数研出版）
科　　目	生　　物	単位数 (年間予定コマ数)	２ (78)	副教材	セミナー生物（第一学習社）
科目概要	第１編　生命現象と物質　　第１章　細胞と分子　　第２章　代謝　　第３章　遺伝情報の発現 第２編　生殖と発生　　第４章　生殖と発生				
到達目標	・タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえることができるようになる。 ・動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解できるようになる。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は、実際に実験を行う。実験後は必ずレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノート等に写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナー（問題集）は併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自で解くようにすること。				
備　　考	・この授業は後期に週４コマ実施する（年間総授業数７８コマ(予定)）				

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
〈２年後期〉 第１章　細胞と分子 １　生体を構成する物質 ２　タンパク質の構造と性質 ３　酵素のはたらき ４　細胞の構造 ５　物質輸送とタンパク質 ６　情報伝達・認識とタンパク質	 ２ ３ ３ ３ ３ ３	 生体物質について タンパク質の構造と性質ついて 酵素について 細胞小器官について 細胞膜の性質と物質の透過性について 情報伝達にはたらくタンパク質について	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解する。
第２章　代謝 １　代謝とエネルギー代謝 ２　呼吸と発酵 ３　光合成 ４　窒素同化	 ３ ５ ４ ３	 代謝について 呼吸と発酵について 光合成と細菌類による炭酸同化について 窒素同化について	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	 代謝における物質の変化とエネルギーのとの関係を理解する。 呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解する。 光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられる仕組みを理解する。 窒素同化について理解する。
第３章　遺伝情報の発現 １　ＤＮＡの構造と複製 ２　遺伝情報の発現 ３　遺伝子の発現調節 ４　バイオテクノロジー	 ４ ４ ３ ３	 ＤＮＡの構造、ＤＮＡ複製のしくみ、遺伝情報の発現について 転写、翻訳について 遺伝子の発現調節について バイオテクノロジーについて	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○ ○	 ＤＮＡ複製の仕組み、遺伝子発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。 遺伝子の発現が調節されていること及びその仕組みの概要を理解する。 遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。
第４章　生殖と発生 １　遺伝子と染色体 ２　減数分裂と遺伝情報の分配 ３　遺伝子の多様な組合せ ４　動物の配偶子形成と受精 ５　初期発生の過程 ６　細胞の分化と形態形成 ７　植物の配偶子形成と発生	 ４ ４ ５ ４ ５ ５ ５	 染色体について 減数分裂と受精について 遺伝子の連鎖と組換えについて 遺伝子と染色体について 配偶子形成と受精について 初期発生の過程について 細胞の分化と形態形成について 配偶子形成と受精、胚発生について	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組み合わせが生じることを理解する。 遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 配偶子形成と受精の過程について、卵割から器官分化の始まりまでの過程を理解する。 細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。 配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解する。 被子植物の器官の分化の過程について理解する。

【基本情報】

教　　科	理　　科	学　年	２年	教科書	地学基礎　改訂版（啓林館）
科　　目	地学基礎	単位数 (年間予定コマ数)	2 (78)	副教材	ニューステージ新地学図表（浜島書店） マーク式基礎問題集地学基礎（河合出版）
科目概要	地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。				
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，地学的に探究する能力と態度を身につける。地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を身につける。大学入試センター試験「地学基礎」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留意事項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。				
家庭学習	・家庭学習において、履修した内容について教科書や副教材の問題演習を通して必ず復習すること。				
備　　考	・学期末の評価については、下記の４観点を１００点法で換算し、５段階で評価します。				

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
A．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	２０％	授業や探究活動の取り組み姿勢、課題提出状況で判断します。
B．思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	探究活動の取り組み状況と、定期考査の中で思考・判断・表現に関わる問題を出題することで評価します。
C．観察・実験の技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い､基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	２０％	実験・実習等で、提出されたレポートの作成・提出状況と、定期考査の中で観察・実験の技能に関わる問題を出題することで評価します。
E．知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	定期考査の中で、知識・理解に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	観点別評価 B	観点別評価 C	観点別評価 D	到達目標
第１部 固体地球とその変動							
第１章 地球	6						
第１節 地球の概観		・地球の概観について学び，その内部構造について理解する。	○	○			・地球の形状や大きさ、その具体的な測定方法と原理を理解する。
第２節 地球の内部構造				○	○		
第２章 活動する地球	１１						・プレートの分布と運動およびプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。
第１節 プレートと地球の活動		・プレートと地球の活動について理解し，地震や火山活動，火成岩の形成について学ぶ。		○		○	・地震、火山、造山運動などの地殻変動のしくみを理解する。
第２節 地震					○	○	・地殻変動とプレート運動との関係を理解する。
第３節 火山活動と火成岩の形成					○	○	
第２部 移り変わる地球							
第１章 地球史の読み方	8						
第１節 堆積岩とその形成		・堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び，地球の歴史の組み立てについて理解する。		○		○	・風化作用，流水の作用と地表の変化のしくみを理解する。 ・堆積岩の形成と分類について理解する。
第２節 地層と地質構造				○		○	・地質構造（地層、断層、不整合等）の特徴と成因を理解す
第３節 地球の歴史の組み立て				○	○		・地質構造と化石から生命や環境の変化を考察する。 ・地層の水平的な広がりを理解する。
第２章 地球生命の進化	9						・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解する。
第１節 先カンブリア時代		・古生物の変遷と地球環境の変化について理解し，先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。	○			○	・古生物の変遷に基づいて地質時代が区分されることや地球環境の変遷について理解する。
第２節 顕生代			○			○	
前期中間考査	1			○		○	
第３部 大気と海洋							
第１章 大気の構造	7	・大気圏について理解し，水と気象の関係を学ぶ。					・大気の層構造について理解する。
第１節 大気圏			○			○	
第２節 水と気象				○	○		・大気の大循環とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。
第２章 太陽放射と大気・海水の運動	7			○		○	
第１節 地球のエネルギー収支		・地球全体のエネルギー収支について理解し，大気の大循環や海水の循環について学ぶ。		○		○	・地球全体の熱収支について理解する。
第２節 大気の大循環			○			○	・海水の運動とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。
第３節 海水の循環			○			○	
第３章 日本で見られる季節の気象	4	・日本で見られる冬から春，夏から秋への季節の気象について学ぶ。			○	○	・日本で見られる冬から春の気象について理解する。
第１節 冬から春の気象					○	○	
第２節 夏から秋の気象					○	○	
第４部 宇宙の構成							
第１章 太陽系と太陽	6	・太陽系の誕生について理解し，太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び太陽系の天体について学ぶ。					
第１節 太陽系の天体			○			○	・太陽系の構造，構成天体の性質について理解する。
第２節 太陽系の誕生			○	○			・太陽系の誕生について理解する。
第３節 太陽					○		・太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源について理解する。
第２章 恒星としての太陽の進化	7			○	○		
第１節 太陽と恒星		・恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。		○		○	・恒星の明るさと色について理解する。
第２節 太陽の誕生と進化				○	○		・恒星の誕生と進化について理解する。
第３章 銀河系と宇宙							
第１節 銀河系とまわりの銀河	5	・銀河系とまわりの銀河について学び，宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。	○			○	・銀河系とまわりの銀河について理解する。 ・宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。
第２節 宇宙の姿			○	○		○	
学年末考査	1			○			
第５部 自然との共生							
第１節 地球環境と人類	2		○		○		・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解する。
第２節 日本の自然災害と防災	2		○		○		・日本の自然災害と防災について理解する。 ・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解する。
第３節 地球環境に及ぼす人間活動の影響	1		○		○		

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	２年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅱ （　物理分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (117)	副教材	改訂版　物理基礎（数研出版）　（数研・物基３０７） 改訂版　物　　理（数研出版）　（数研・物理３０４） リードα物理基礎・物理（数研出版編集部）
科 目 概 要	１．平面運動，運動量，円運動，万有引力，気体分子の運動など様々な物体の運動 ２．水面波・音・光などの波動現象 ３．電気や磁気に関する現象 ４．電子・原子および原子核に関する現象				
到 達 目 標	１．力と運動に関する概念・原理・法則を系統的に理解し，活動できるようになる。 ２．波動現象の基本的な概念・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ３．電気と磁気に関する基本的な概念・原理・法則を系統的に理解し，日常生活と関連づけて考察できるようになる。 ４．原子についての基本的な概念・原理・法則が理解できる。				
授業の進め方	・基本的な要点をもとに説明を行い，演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して，実験の基本を身につけ，科学に対する興味や関心を深めていきます。 ・問題演習時や観察・実験時は，協同的な学習（話し合いや教え合い，学び合い）を推奨します。 ・実験，観察をとおして理解したこと，または疑問が生じたことを，表現する場をつくります。				
留 意 事 項	・授業に必要な教材（教科書，ノート，プリント，ファイル，問題集等）は毎時間準備すること ・実験には、積極的参加し、班で行う場合は、班員と協力して進めて行く。 ・忘れものがないように心掛ける。忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。 ・授業中質問をするので、説明をよく聞き、積極的に授業に参加すること。 ・提出物の期限を守ること。 ・基礎的事項について，適宜小テストを実施します。				
家 庭 学 習	・復習を中心に家庭学習をすることを推奨します。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	物理学的現象に関心・探求心を持てているか。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物理学的現象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現できているか。	３０％	
Ｃ．技能	観察・実験において，器具機材の基本的操作を身に付け，結果を記録・整理できているか。	１０％	
Ｄ．知識・理解	物理学的現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し，その知識が身についたか。	４０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	B	C	D	到達目標
＜２年前期＞２単位	計７８						
第１編　運動とエネルギー							
第１章　運動の表し方	１３	速度	○			○	・物理量の測定と表し方，分析の手法について理解できる。
		●実験　等速直線運動の実験		○	○		・直線上を運動する物体の表し方について理解できる。
		加速度，落体の運動	○			○	・直線上を運動する物体の加速度を理解できる。
		●実験　重力加速度ｇの測定		○	○		・落下運動の表し方について理解できる。
第２章　運動の法則	１３	力とその働き	○			○	・物体にはたらく様々な力について理解できる。
		●実験　フックの法則の検証		○	○		
		力のつりあい	○			○	・物体にはたらく力のつりあいについて理解できる。
				○	○		
		運動の法則	○			○	・運動の三法則について理解できる。
		●実験　運動の法則の実験		○	○		
		摩擦を受ける運動	○			○	・静止摩擦力，動摩擦力について理解できる。
		液体や気体から受ける力	○			○	・流体の圧力，浮力について理解できる。
第３章　仕事と力学的エネルギー	８	仕事	○			○	・「仕事」の定義が理解できる。
		運動エネルギー	○			○	・運動エネルギーと位置エネルギーについて，仕事と関連づけて理解できる。
		位置エネルギー	○			○	
		力学的エネルギーの保存	○			○	・力学的エネルギー保存の法則を理解できる。
第２編　熱							
第１章　熱とエネルギー	４	熱と熱量	○			○	・熱と温度について，熱運動の視点から理解できる。
		熱と物質の状態	○			○	・熱量について理解できる。
		熱と仕事	○			○	・熱量の移動および熱と仕事の変換について理解できる。
		不可逆変化と熱機関	○			○	
		●実験　落下による熱の発生実験		○	○		
前期中間試験	１						
第３編　波							
第１章　波の性質	８	波と媒質の運動，波の伝わり方	○			○	・直線状に伝わる場合を中心に，波の性質について理解できる。
第２章　音	９	音の性質	○			○	・音波の性質について理解できる。
		発音体の振動と共振・共鳴	○			○	・気柱の共鳴，弦の振動について理解できる。
		●実験　気柱共鳴管を用いた振動数の測定		○	○		
第４編　電気							
第１章　物質と電気抵抗	１０	電気の性質	○			○	・自由電子の振る舞いについて理解できる。
		電流と電気抵抗	○			○	・物質によって抵抗率が異なることが理解できる。
		電気とエネルギー	○			○	・ジュール熱について理解できる。
第２章　交流と電磁波	７	交流	○			○	・交流の発生，送電および利用について理解できる。
		電磁波	○			○	・電磁波の種類と利用について理解できる。
第５編　物理学と社会							
第１章　エネルギーとその利用	２	エネルギーの移り変わり	○			○	・人類が利用可能な各種エネルギーの特性や利用などについて物理学的視点から理解できる。
		エネルギー資源と発電	○			○	
第２章　物理学が拓く世界	２	摩擦をコントロールする	○			○	・学習事項と日常生活や科学技術との結びつきを理解できる。
		エネルギーを有効利用する	○			○	
		見えないものを見る	○			○	
前期期末試験	１						
＜２年後期＞１単位	計３９						
第１編　力と運動							
第１章　平面内の運動	５	平面運動の速度・加速度	○			○	・平面内を運動する物体の運動について理解できる。
		落体の運動	○			○	・斜方投射された物体の運動を理解できる。
第２章　剛体	５	剛体にはたらく力のつりあい	○			○	・大きさのある物体のつりあいを理解できる。
		剛体にはたらく力の合力と重心	○			○	・物体の重心について理解できる。
		●実験　重心の測定		○	○		
後期中間試験	１						
第３章　運動量の保存	８	運動量と力積	○			○	・運動量と力積の関係について理解できる。
		運動量保存則	○			○	・物体の衝突や分裂における運動量の保存を理解できる。
		反発係数	○			○	・衝突におけるはね返りについて理解できる。
第４章　円運動と万有引力	１９	等速円運動，慣性力	○			○	・等速円運動をする物体にはたらく力について理解できる。
		単振動	○			○	・単振動をする物体にはたらく力について理解できる。
		●実験　単振り子による重力加速度ｇの測定		○	○		
		万有引力	○			○	・万有引力の法則および天体の運動について理解できる。
後期期末試験	１						

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	２年	教科書	化学　改定版（啓林館312）
科　　目	ＳＳ理科Ⅱ （　化学分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	改訂版　リードα化学基礎＋化学（数研出版） 三訂版　スクエア最新図説化学（第一学習社）

科目概要	・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、基本的な概念や原理・法則の理解を深める。また、化学基礎で学習した内容を、さらに発展的な学習をすることによって化学基礎への理解をさらに深める。
到達目標	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解できる。 ・化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できる。 ・無機物質の性質や反応を観察・実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察することができる。
授業の進め方	・教科書の内容を基本的な要点をもとに説明を行い、演習問題や小テストを通して理解と定着をはかります。 ・実験観察を通して、実験の基本を身につけ、理科に対する興味や関心を深めていきます。
留意事項	・毎時間、　教科書・ノート　を持ってくること。 ・授業の内容をよく聞き、理解し、教科書・副教材の問題演習に取り組む。 ・提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。 ・小テストは、理解して欲しいことや覚えて欲しいことなどについて基本的な内容で行うので、学習してくること。
家庭学習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して､事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を整理し､知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
＜　２年　後期　＞							
第１部 物質の状態と平衡							
	１２	物質の状態変化と粒子の運動		○		○	・物質の沸点、融点を化学結合と関連付けて理解できる。
第１章　物質の状態とその変化		状態変化とエネルギー		○		○	・構成粒子の状態とエネルギーの関係について理解できる。
	１５	気体の体積の変化		○		○	・気体の体積と圧力、温度との関係を理解できる。
第２章 気体の性質		気体の状態方程式性質		○		○	・気体の体積の変化がわかり，圧力と体積の関係を式にまとめる事ができている。
		●探究活動　ボイル・シャルルの実験	○		○		
	８	結晶と化学結合		○		○	・結晶格子の概念、構造を理解できる。
第３章 固体の構造							
	１４	溶解平衡と溶解度		○		○	・固体と気体の溶解度を求めることができる。
第４章 溶液の性質		希薄溶液の性質、コロイド		○		○	・濃度と沸点、凝固点の関係やコロイドの性質を理解できる。
第２部 物質の変化と平衡	１０	反応熱と熱化学方程式		○		○	・ヘスの法則を用いて反応熱を求めることができる。
		光とエネルギー、ヘスの法則		○		○	・化学エネルギーの差と発生や吸収について理解できる。
第１章 化学変化と熱・光エネルギー		●探究活動　ヘスの法則の検証	○		○		

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	２年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅱ（生物分野）	単位数 (年間予定コマ数)	２ (78)	副教材	改訂版　生物（数研出版） セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）
科目概要	第１編　生命現象と物質　　第１章　細胞と分子　　第２章　代謝　　第３章　遺伝情報の発現 第２編　生殖と発生　　第４章　生殖と発生				
到達目標	・タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえることができるようになる。 ・動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解できるようになる。 ・センター試験で全国平均を上回る学力をつける。（模試では平均偏差値５５以上）				
授業の進め方	・基本的に教科書に沿って進む。 ・教科書の実験の内容の一部は、実際に実験を行う。実験後は必ずレポートを提出すること。 ・板書中心の授業展開になるので板書した内容を全てノート等に写すこと。				
留意事項	・教科書とセミナー（問題集）は併用して使用するので、教科書で基本事項を理解し、セミナーで更に理解を深め、応用力をつけること。 ・教科書とノートを必ず用意すること。問題集を使用する場合は事前に連絡する。 ・定期的にノート提出を行う。板書した内容を全てノートに写すこと。 ・実験・観察に意欲的に参加し、必ず実験レポートを提出すること。またその際、提出期限を守ること。 ・実験のときなどの教室移動は休み時間のうちに行い、始業と同時に速やかに授業が行えるようにすること。 ・忘れ物がないようにすること。もし、忘れ物がある場合は、事前に申し出ること。				
家庭学習	・問題集は、授業の進度に合わせて各自で解くようにすること。				
備　　考	・この授業は後期に週４コマ実施する（年間総授業数７８コマ(予定)）				

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	生物や生物現象について関心や探求心をもち、主体的に探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	２０％	授業ワークシート、実験、観察時のレポート、小テスト、定期試験問題など、随時観点別評価項目を設定し、評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	生物や生物現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．観察・実験の技能	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
〈２年後期〉 第１章　細胞と分子 １　生体を構成する物質 ２　タンパク質の構造と性質 ３　酵素のはたらき ４　細胞の構造 ５　物質輸送とタンパク質 ６　情報伝達・認識とタンパク質	 ２ ３ ３ ３ ３ ３	 生体物質について タンパク質の構造と性質ついて 酵素について 細胞小器官について 細胞膜の性質と物質の透過性について 情報伝達にはたらくタンパク質について	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解する。
第２章　代謝 １　代謝とエネルギー代謝 ２　呼吸と発酵 ３　光合成 ４　窒素同化	 ３ ５ ４ ３	 代謝について 呼吸と発酵について 光合成と細菌類による炭酸同化について 窒素同化について	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	 代謝における物質の変化とエネルギーのとの関係を理解する。 呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解する。 光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられる仕組みを理解する。 窒素同化について理解する。
第３章　遺伝情報の発現 １　ＤＮＡの構造と複製 ２　遺伝情報の発現 ３　遺伝子の発現調節 ４　バイオテクノロジー	 ４ ４ ３ ３	 ＤＮＡの構造、ＤＮＡ複製のしくみ、遺伝情報の発現について 転写、翻訳について 遺伝子の発現調節について バイオテクノロジーについて	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○ ○	 ＤＮＡ複製の仕組み、遺伝子発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。 遺伝子の発現が調節されていること及びその仕組みの概要を理解する。 遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。
第４章　生殖と発生 １　遺伝子と染色体 ２　減数分裂と遺伝情報の分配 ３　遺伝子の多様な組合せ ４　動物の配偶子形成と受精 ５　初期発生の過程 ６　細胞の分化と形態形成 ７　植物の配偶子形成と発生	 ４ ４ ５ ４ ５ ５ ５	 染色体について 減数分裂と受精について 遺伝子の連鎖と組換えについて 遺伝子と染色体について 配偶子形成と受精について 初期発生の過程について 細胞の分化と形態形成について 配偶子形成と受精、胚発生について	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組み合わせが生じることを理解する。 遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 配偶子形成と受精の過程について、卵割から器官分化の始まりまでの過程を理解する。 細胞の分化と形態形成の仕組みを理解する。 配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解する。 被子植物の器官の分化の過程について理解する。

【基本情報】

教　　科	理　　数	学　年	２年	教科書	
科　　目	ＳＳ理科Ⅱ （　地学分野　）	単位数 (年間予定コマ数)	３ (117)	副教材	地学基礎　改訂版（啓林館）・地学（啓林館） ニューステージ新地学図表（浜島書店） マーク式基礎問題集地学基礎（河合出版）・センサー地学（啓林館）
科 目 概 要	・地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則について、身近な自然現象との関連を図りながら学習する。地学的な探究活動を通して、科学的な見方や考え方を身につける。さらに発展的な学習をすることによって地学への理解をさらに深める。				
到 達 目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，地学的に探究する能力と態度を身につける。 ・地学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を身につける。 ・大学入試センター試験「地学基礎」「地学」に対応するために必要とされる知識や思考力を身につける。。				
授業の進め方	・教科書・図表を基にした講義を中心に授業を進める。 ・学習内容に関わる探究活動を行うことで、知識や理解の定着を図る。				
留 意 事 項	・教科書・副教材（図表・問題集）・ノート・ワークシート等を綴じるファイルを持ってくること。 ・グループで実習を行う際には、積極的参加しメンバーと協力すること。 ・忘れ物をした場合は、事前に申し出ること。提出物の期限を守ること。期限に遅れた場合は、減点になる場合がある。。 ・講義に対して、質問するなどの積極的な姿勢を歓迎する。				
家 庭 学 習	・履修した内容について、教科書と副教材の問題演習を家庭学習において解いてください。				
備　　考	・日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性や仕組みについて、学習内容と関連づけて考える態度をもつこと。 ・疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 ・学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。				

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物や自然現象の概念について科学的な見方や考え方でとらえようとする。	２０％	授業ワークシート・観察・実験での取り組み状況やレポート、小テスト、定期考査など、随時観点別項目を設定し評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境に関する事物や自然現象に対して、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	３０％	
Ｃ．技能	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	２０％	
Ｄ．知識・理解	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理・法則を整理し、知識を身につけている。	３０％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価 A	B	C	D	到達目標
＜　２年　前期　＞							
第１部 固体地球とその変動	１	・イントロダクション					・学習の進め方について理解する。
第１章 地球	８	・地球の概観について学び，その内部構造について理解する。	○	○			・地球の形状や大きさ、その具体的な測定方法と原理を理解する。
第１節 地球の概観				○	○		
第２節 地球の内部構造				○	○		・プレートの分布と運動およびプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。
第２章 活動する地球	１５	・プレートと地球の活動について理解し，地震や火山活動，火成岩の形成について学ぶ。		○		○	
第１節 プレート							・地震、火山、造山運動などの地殻変動のしくみを理解する。
第２節 地震					○	○	・地殻変動とプレート運動との関係を理解する。
第３節 火山活動と火成岩の形成					○	○	
第２部 移り変わる地球							・風化作用，流水の作用と地表の変化のしくみを理解する。
第１章 地球史の読み方	１０						・堆積岩の形成と分類について理解する。
第１節 堆積岩		・堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び，地球の歴史の組み立てについて理解する。	○	○		○	・地質構造（地層、断層、不整合等）の特徴と成因を理解す
第２節 地層と地質構造				○	○		・地質構造と化石から生命や環境の変化を考察する。
第３節 地球の歴史				○		○	・地層の水平的な広がりを理解する。
第２章 地球生命の進化	１２						・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解する。
第１節 先ｶﾝﾌﾞﾘｱ時代		・古生物の変遷と地球環境の変化について理解し，先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。	○			○	
第２節 顕生代			○			○	・古生物の変遷に基づいて地質時代が区分されることや地球環境の変遷について理解する。
前期中間考査	１						
第３部 大気と海洋							
第１章 大気の構造	１０	・大気圏について理解し，水と気象の関係を学ぶ。					・大気の層構造について理解する。
第１節 大気圏			○			○	
第２節 水と気象				○	○		・大気の大循環とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。
第２章 太陽放射と大気・海水の運動	１０	・地球全体のエネルギー収支について理解し，大気の大循環や海水の循環について学ぶ。		○		○	
第１節 地球のエネルギー収支				○		○	・地球全体の熱収支について理解する。
第２節 大気の大循環			○			○	・海水の運動とそれによる地球規模の熱の輸送について理解する。
第３節 海水の循環			○			○	
第３章 日本で見られる季節の気象	１０	・日本で見られる冬から春，夏から秋への季節の気象について学ぶ。		○	○	○	
							・日本で見られる冬から春の気象について理解する。
第１節 冬から春の気象			○	○	○	○	
第２節 夏から秋の気象			○	○	○	○	
前期末考査	１						
＜　２年　後期　＞							
第４部宇宙の構成と構造							
第１章 太陽系と太陽	９	・太陽系の誕生について理解し，太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び太陽系の天体について学ぶ。	○			○	・太陽系の構造，構成天体の性質について理解する。
第１節 太陽系の天体			○	○			・太陽系の誕生について理解する。
第２節 太陽系の誕生					○		・太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源について理解する。
第３節 太陽				○	○		
●地球と惑星の運動		・恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。		○	○		・恒星の明るさと色について理解する。
第２章 恒星としての太陽の進化	９			○		○	・恒星の誕生と進化について理解する。
		・遠く離れた恒星の性質について，恒星からの光を調べることで明らかにされてきたことを学ぶ。			○		
第１節 太陽と恒星			○	○		○	
第２節 恒星の進化			○		○	○	
●恒星の性質とＨＲ図			○		○	○	
後期中間考査	１						
第３章 銀河系と宇宙	９	・恒星と星間物質の大集団である銀河系や遠くの銀河などの天体について学び，宇宙の構造や膨張について学ぶ。また，それが天体観測技術の発達によって次第に可能になっていったことを学ぶ。					・銀河系とまわりの銀河について理解する。
第１節 銀河系とまわりの銀河				○	○		・宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。
			○	○		○	・宇宙の構造や膨張について理解する。
第２節 宇宙の姿							
●銀河と宇宙			○	○	○		
第５部 自然との共生	１０						
第１節 地球環境と人類		・人類と自然の関わりについて学ぶ。	○	○	○	○	・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解する。
第２節 自然災害と防災		・自然災害と防災について学ぶ。					・日本の自然災害と防災について理解する。
第３節 地球環境		・地球環境に及ぼす人間活動の影響について学習する。					・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解する。
学年末考査	１						

４．科目別シラバス

科　目　名	体　育	単　位　数 （年間予定コマ数）	２ （７８）	学　年	２
教　科　書	現代高等保健体育（大修館書店）	副　教　材	アクティブスポーツ総合版（大修館書店）		

科目の概要	各種運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また自己の状況に応じて体力の向上を図り、公正・協力・責任などの態度を育てるとともに、健康・安全に努め、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
科目の到達目標	①　運動の合理的、計画的な実践ができるようにする。 ②　生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につけさせる。 ③　健康の保持増進のための実践力を育成する。 ④　体力の向上を図らせる。 ⑤　明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。
授業の進め方	・３年間を見通して幅広く各種の運動を経験し、生涯スポーツにつながるように取り組ませる。 ・一斉授業を実施し、各種運動に対して、自己の能力や興味・関心を高めることを考えて進める。 ・各種目の最後に実技テストを行う。

評価規準	観点別	意欲・関心・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解
	評価の観点	①主体的にかつ計画的に運動を行っているか。 ②公正・協力・責任などの態度を身につけようとしているか。	①自己およびグループの課題解決を目指して活動の仕方を考え、工夫しようとしているか。 ②個人・集団の活動における健康と安全について、課題の解決を目指して考え、判断しているか。	①各種の運動技能が高められたか。 ②運動の合理的な行い方を身につけているか。	①運動の学び方や体力の高め方、ルールなどに関する基礎的な事項を理解しているか。
	比重	10%	10%	70%	10%
	評価方法	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。	これらの観点を、授業を通して、総合的に判断する。

授業を受けるにあたっての留意点など	・目標に向けた取り組みにあたって、健康・安全に留意し、自ら積極的に授業に参加することが大切である。 ・個人的成長はもちろん、集団行動を通して協調性などの社会的態度、礼儀などを身につけることが求められる。 ・時間や服装などのきまりをしっかり守る。
家庭学習	教科書・副教材をもとに授業計画を立てる上で必要となる、知識や練習方法などの情報収集に努める。
備　考	

単元名と単元の内容	配当時数	学習内容・学習のポイント	到達目標（評価の観点）
［体づくり運動］ ※体力テストの実施	6	○体ほぐしの運動 ・実生活に活かす様々な運動 ○体力を高めるための運動 ・体力の構成要素をバランスよく全面的に高める。	●心と体は互いに影響し変化することに気付き、体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動ができたか。 ●自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力向上を図るための継続的な運動計画を立て取り組むことができたか。
［球技Ⅲ］ 男子 ソフトボール・ソフトテニス 女子 ソフトボール・ソフトテニス	１２	男子　○ソフトテニス・ソフトボール 雨天時：バドミントン・バレーボール 卓球・バスケットボール 女子　○ソフトテニス・ソフトボール 雨天時：バドミントン・バレーボール 卓球・バスケットボール	●状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開できたか。 ●状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間をつくりだすなどの攻防を展開できたか。 ●状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開できたか。
［陸上競技］ ○跳躍・投てきからの選択	１２	○走り幅跳び ○砲丸投げ、円盤投げ	◎記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができたか。 ●主体的に取り組みルールやマナーを大切にできたか。 ●役割を引き受け自己の責任を果たそうとしたり、合意形成に貢献しようとすることなどや健康・安全を確保することができたか。
［球技Ⅳ］ バドミントン・バレーボール から選択	9	○バドミントン　　練習計画とゲーム運営 ○バレーボール　　練習計画とゲーム運営	◎種目の特性を理解し、技能を高めることができたか。 ◎周りと協力し、練習計画やゲーム計画を立て、実行することができたか。 ●ルールの理解。集団の技能に応じた練習やゲームの展開を工夫し、総合的なレベルの向上につなげられたか。 ●主体的に取り組むことができたか。
［球技Ⅴ］ バスケットボール・卓球 から選択	9	○バスケットボール　　練習計画とゲーム運営 ○卓球　　練習計画とゲーム運営	◎種目の特性を理解し、技能を高めることができたか。 ◎周りと協力し、練習計画やゲーム計画を立て、実行することができたか。 ●ルールの理解。集団の技能に応じた練習やゲームの展開を工夫し、総合的なレベルの向上につなげられたか。 ●主体的に取り組むことができたか。
［武道］（男子） 柔道	１０	○受身の復習　○基本動作 ○投げ技　○投げ技の連絡 ○投げ技の防御 ○固め技　○固め技の防御 ○自由練習　○試合	◎技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できたか。 ●相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開できたか。
［ダンス］（女子） 創作ダンスⅡ ※手具使用したダンス・体操	１０	○班編成　○テーマ設定 ○個の動きづくり ○群の動きづくり ○手具の表現づくり ○発表会	◎感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができたか。 ●テーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で対極の動きや空間の使い方で変化を付けてイメージを強調した作品にまとめて踊ることができたか。
［スキー］ ・基礎スキー	１４	○習熟度別グループ学習 【15 人程度の班に指導教員１名の体制】 ○スキルテスト ○フリー滑走	◎スキーの基礎技術を習得するとともに、自己の体力向上に努めることができたか **◎集団行動を通して公共の場で立ち振る舞いを学ぶとともに、自他ともに安全な活動ができたか。** ●スキルテスト実施
［体育理論］	6	○運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ①運動やスポーツの技術と技能 ②運動やスポーツの技能の上達過程 ③運動やスポーツの技能と体力の関係 ④運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方	◎各項目ごとに、座学を中心とした授業を行い、小テストを実施する。その評価は「知識・思考・判断」の観点に反映させる。
	合計７８		

４．科目別シラバス

科　目　名	保健	**単　位　数** **（年間予定コマ数）**	1 **（３９）**	**学　　年**	2
教　科　書	現代高等保健体育（大修館書店）	**副　教　材**	現代高等保健体育ノート（大修館書店）		
科目の概要	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成するため、生活習慣の乱れやストレスなどが健康に影響することを中心に学ぶ。 ①　生涯を通じる健康 ②　社会生活と健康				
科目の到達目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
授業の進め方	・教科書と学習ノートを使用して、講義形式で行う。視聴覚教室でビデオ学習する場合がある。 ・授業の流れは、教科書を読み、テーマに基づき板書していく形で進める。 ・各テーマにプリントを用い、考える力も身につける。 ・定期考査は、前期中間・前期期末考査を２回実施する。				

評価規準	**観点別**	意欲・関心・態度	思考・判断	知識・理解	
	評価の観点	・健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、個人および集団の課題解決に向けて意欲的に学習に取り組もうとしているか。	・健康の保持増進に必要な事柄について課題の設定や解決の方法を考え、選択すべき行動を判断しているか。	・健康の保持増進に必要な事柄について課題解決に立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。	
	比重	１０％	１０％	８０％	
	評価方法	・工夫したノート作成ができているかを評価します。 ・課題に対するまとめの仕方を評価します。	・授業中の発問に対する対応を評価します。 ・各項目での研究課題に対する情報収集や予習について評価します。	・原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題する。	

授業を受けるにあたっての留意点 など	・上記目標を達成するためには、健康・安全に留意し、自ら積極的に授業に参加することが大切である。 ・学習内容をより深めるためには、日常的な社会事象についてニュースや新聞などで情報を集め、健康・安全に関することに興味・関心を高めるとともに、個人および集団の課題を解決する方法を見つけ出すことが求められる。 ・１単位なので、欠席には十分気をつけること。
家庭学習	各単元で取り上げられる保健にかかわる諸問題について、常日頃から関心をもつとともにテレビ・新聞・雑誌・インターネット等で情報収集する習慣を養う。
備　　考	

単元名と単元の内容	配当時数	学習内容・学習のポイント	到達目標（評価の観点）
第２単元　生涯を通じる健康 【生涯の各段階における健康】 １　思春期と健康 ２　性意識と性行動の選択 ３　結婚生活と健康 ４　妊娠・出産と健康 ５　家族計画と人工妊娠中絶 ６　加齢と健康 ７　高齢者のための社会的取り組み	１２	「生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理および環境づくりを行う必要があることを中心に学習する。」	「生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることについて理解できるようにする。」
【保健・医療制度および地域の保健・医療機関】 ８　保険制度とその活用 ９　医療制度とその活用 10　医薬品と健康 11　さまざまな保健活動や対策	7	「保健・医療の制度および地域の保健・医療機関を適切に活用すること、我が国や世界では様々な保健活動や対策が行われていることなどを中心に学習する。」	「我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。」
前期期末考査	1		
第３単元　社会生活と健康 【環境と健康】 １　大気汚染と健康 ２　水質汚濁・土壌汚染と健康 ３　健康被害の防止と環境対策	6	「自然環境の汚染が社会生活における健康に影響を及ぼすこともあること、その防止には汚染の防止および改善の対策をとる必要があることなどを中心に学習する。」	「人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し、健康に影響を及ぼすこともあること、それらを防ぐには汚染の防止および改善の対策をとる必要があることについて理解できるようにする。」
【環境と食品の保健】 ４　環境衛生活動のしくみと働き ５　食品衛生活動のしくみと働き ６　食品と環境の保健と私たち	6	「環境と食品を健康に適したものにすることや安全が確保できるように環境衛生活動や食品衛生活動が行われていることなどを中心に学習する。」	「環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づき行われていること、また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われることについて理解できるようにする。」
【労働と健康】 ７　働くことと健康 ８　労働災害と健康 ９　健康的な職業生活	6	「労働における作業環境などの変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた健康管理および安全管理をすることが必要であることなどを中心に学習する。」	「労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえ、適切な健康管理および安全管理をする必要があることについて理解できるようにする。」
後期期末考査	1		
	合計３９		

【基本情報】

教　　科	外国語	学　年	２年	教科書	Perspective English Communication Ⅱ New　Editon（第一学習社）
科　　目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	４ (156)	副教材	新ユメタン１（アルク）
科 目 概 要	Communication English Ⅰ及び、英語表現Ⅰで学んだことを基礎にして、聞く・話す・読む・書くといった言語活動を授業内で実施し、定着を図る。				
到 達 目 標	①教科書、単語集に出てくる単語を身につける。 ②教科書に出てくる文法項目を使用して、自分の考えや本文の大まかな内容を英語で表現できる。 ③教科書の英文について、Questions に答えながら概要を理解することができる。 ④教科書の英文の内容・テーマについて自分の意見を英語で表現することができる。 ⑤教科書以外の英文について、品詞に着目しながら、英文の構造を理解できる。				
授業の進め方	上記の到達目標①～⑤に沿う形で授業を進めていく。 ・授業の冒頭に単語集を使って、英単語・フレーズの音読練習を実施（単語テストを週１回実施）…① ・ハンドアウトを配布し、教科書の英文を要点をとらえながら学習…②③④⑤				
留 意 事 項	・単語集、教科書、英和辞典、ハンドアウト等の活用。 ・配布されるハンドアウトの保存。 ・ペアワークまたはグループワークの取り組み。				
家 庭 学 習	**必ず家庭学習の時間をとり、英語の家庭学習を習慣化していくこと。** ・指示された内容を確実に家庭学習の中で行っていくこと。 ・単語学習／復習　～　単語集の練習に毎日最低２０分＋授業の復習に最低３０分＝毎日最低５０分間を確保すること。 （★復習は上記の到達目標①~⑤の内容をその日の授業で実施した内容に合わせて行う） ・２年生のこれからの１年間で英語の学力をほぼ完成させるつもりで取り組むこと。 ・英語検定試験は、準２級、２級、準１級を目指して取り組むようにすること。				
備　　考	・この授業は週４コマ実施する（年間総授業数１５６コマ）。				

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
A．コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	２０％	授業時の活動状況
B．外国語表現の能力	教科書の文法項目を使用した英文の作成を適切に行うことができるか。	３０％	ハンドアウト 定期考査
C．外国語理解の能力	教科書・単語集の英単語を身につけて、教科書本文、及び補助読解テキストの英文の概要を理解できるか。	３０％	小テスト（単語テスト）、ハンドアウト 定期考査（Q&A ／内容把握） 休み明け等の課題提出／休み明けテスト（春・夏・冬）
D．言語や文化についての知識・理解	教科書本文で取り上げられテーマに関わる内容・背景知識を理解し意見や感想を表現できるか。	２０％	ハンドアウト 定期考査

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
Lesson 1 A Hunger for Knowledge	１４	・独学で発電方法を学んだ少年に関する英文を読んで，学習することの意義について考えさせる。 ・生徒が今までに学んできたことの活用方法を自ら考えさせる。	○	○	○	○	With …などが条件を表す仮定法，同格の that を理解し，文を作ることができる。
Lesson 2 The Mission of the Olympics	１４	・オリンピックの歴史や意義，ソチオリンピックでの感動的なエピソードとオリンピックにおける「おもてなし」の精神について読み取らせる。 ・オリンピックの意義と世界平和・国際協調の関連について自ら考えさせる。	○	○	○	○	未来完了形，完了動名詞を理解し，文を作ることができる。

前期中間考査 （ここまで２９コマ）	１						
Lesson 3 Amazing Tool Users	１４	・動物による道具使用の多様性とその特徴を読み取らせる。 ・動物の知能についての興味付けを行い，その他の例について自ら考えさせる。	○	○	○	○	仮定法を含む表現，否定語＋倒置を理解し， 文を作ることができる。
Lesson 4 Khaled Reshad —— A Doctor Across Borders	１４	・レシャード・カレッド医師が医師を志すきっかけとなった2つの出来事や，日本・アフガニスタン両国での医療活動について読み取らせる。 ・レシャード医師が考える真の医療について理解し，医療のあり方について自ら考えさせる。	○	○	○	○	be　to-不定詞，前置詞＋関係代名詞を理解し， 文を作ることができる。
前期期末考査 （ここまで２９コマ）	１						
Lesson 5 Lost and Wasted	１４	・食糧損失・食糧廃棄の理由やそれが及ぼす影響について読み取らせる。 ・食糧損失や食糧廃棄を減らすための世界での取り組みを知り，そうしたことに関して私たちの日常生活でできることについて自ら考えさせる。	○	○	○	○	独立分詞構文，複合関係詞を理解し， 文を作ることができる。
Lesson 6 Taro's Suns Look Toward World Peace	１４	・岡本太郎氏の来歴や，戦争に対する考え方が自らの作品に与えた影響を読み取らせる。 ・岡本氏の創作についての興味付けを行い，また，それが世界に与えている影響について自ら考えさせる。	○	○	○	○	・ 動名詞の意味上の主語，動名詞（受動態）を理解し， 文を作ることができる。
Lesson 7 Machu Picchu —— City in the Clouds	１４	・マチュピチュ発見までの経緯と，遺跡群の特徴を読み取らせる。 ・世界の遺跡の発掘物の所有権について自ら考えさせる。	○	○	○	○	完了形の分詞構文，主語が条件を表す仮定法を理解し 文を作ることができる。
Lesson 8 The Little Rock Nine	１４	・1950年代の人種差別についてのアメリカ国民の考えと，Little Rock Central High Schoolでの出来事が社会に与えた影響を読み取らせる。 ・人種差別問題への興味付けを行い，現在ではそれは完全に根絶されたのかについて自ら考えさせる。	○	○	○	○	with ＋名詞＋分詞など，仮定法現在を理解し， 文を作ることができる。
後期中間考査 （ここまで５７コマ）	１						
Lesson 9 A Long Voyage for Friendship	１４	・エルトゥールル号遭難事件とトルコ航空機による日本人救出劇の関連性，山田寅次郎の活躍，エルトゥールル号発掘調査について読み取らせる。 ・エルトゥールル号遭難事件をきっかけにはじまった日本とトルコの交流をもとに，真の国際交流について自ら考えさせる。	○	○	○	○	進行形（受動態），完了不定詞を理解し， 文を作ることができる。
学年末考査 （ここまで５７コマ）	１						
科学英語Ⅱ	２３		○	○			●３年次の課題研究英語発表会に向けた取り組みを行う ・各班の論文の英語への翻訳作業 ・英語によるプレゼンテーションの基礎的なテクニックの学習

【基本情報】

教　　科	外国語	学　年	２　年	教科書	
科　　目	英語表現Ⅰ	単位数 (年間予定コマ数)	１ （７８）	副教材	Revised Vision Quest　English Expression Ⅰ　Advanced （啓林館） 基礎からはじめる英作文　Active Writing（啓林館） 読んで聴いて　速読力アップ　LR ３（いいずな書店）

科 目 概 要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。
到 達 目 標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
授業の進め方	・ 各レッスンのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。また、文法事項を体系的に学習し、練習問題等で確実に身につけ、応用問題への基礎固めをする。具体的には ・予習していることを前提に授業を進める。進むペースが速いので家庭での予習・復習が必ず必要となる。また、わからないところは授業中及び授業後に積極的に質問をすること。 ・リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。その意味を理解して積極的に声を出すこと。 ・Expressing で自分のことや自分の周りのことを英語で言えるようトレーニングする。間違いを恐れないで意欲的に取り組むこと。
留 意 事 項	・音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。 ・予習・復習といった家庭学習を確実に行うこと。また毎回課題を出すので、正確・丁寧に行い、期日に遅れないよう取り組むこと。課題の提出については評価（成績）の１部となる。 ・ノート、筆記用具、辞書を必ず持参すること。もし、忘れ物をした場合は事前に申し出ること。 ・プリント等もたくさん出すので、紛失のないようファイルを用意して保管すること。 ・休み時間のうちに授業準備をしておき、チャイムと同時に学習できる体勢を整えておくこと。
家 庭 学 習	・最低でも１時間の授業で進む所までは予習をすること。モデル会話文は英文の意味を確認したら、３回以上は音読　練習をすること。グラマーの解説文をよく読み、エクササイズの問題を解くこと。その際、わからないところは必　ずチェックして、授業で確認すること。復習ではやはり音読練習を行い、解説文→問題といった具合に再度学習事項　の確認をすること。予習→授業→復習で３回同じ部分の学習をするということを習慣づけること。 ・授業ではリスニングや音読練習の時間を十分にとることができないので、特に、リスニングについては、ラジオ・テレビの英会話番組を、また、単語集付属のＣＤ等を活用し自ら学習すること。
備　　考	この科目は２年間で履修する。

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．　関心・意欲・態度	・モデル会話に関心を持ち聞き、発話しようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。	10 ％	授業中の活動・発表
Ｂ．表現の能力	・モデル会話や例文を英語らしい発音で発話することができる。 ・自分や周りのことを話すことができる。 ・学んだ文法を使って、文章を書くことができる。	5 ％	授業中の活動・発表・課題の提出
Ｃ．理解の能力	・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 ・モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 ・パラグラフの構成を理解している。	5 ％	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査
Ｄ．知識・理解	・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 ・モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 ・パラグラフの構成を理解している。	80 ％	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
Lesson 9 Rules are for everyone's comfort and safety	11	＜ルール＞ 変わる音 賛成する。反対する。 分詞	○	○	○	○		・分詞を使って適切に英文を書くことができる。 ・特定の音の連続によって音が変化する英文を聞いて理解することができる。
Lesson 10 A must-have item for those who run shops	12	＜文化＞ 聞こえなくなる音 説明する。 関係詞		○	○	○		・関係詞を使って適切に英文を書くことができる。 ・聞こえなくなる音があるフレーズや英文を聞いて理解することができる。
前期中間考査 （考査まで　23コマ）	1							
Lesson 11 I believe everything has a positive side	9	＜社会問題＞ 文の中での強調 意見を述べる。主張する。	○	○	○	○		・比較の表現（原級・比較級・最上級）を使って適切に英文を書くことができる。 ・文脈を理解し、文の中での強勢を聞き取ることができる。
Lesson 12 I wish my father were more understanding.	8	比較 ＜悩み事＞ アメリカ英語とイギリス英語 助言する。提案する。 仮定法		○	○	○		・仮定法を使って適切に英文を書くことができる。 ・アメリカ英語かイギリス英語かを判断することができる。
前期期末考査 （考査まで　計17コマ）	1							
Lesson 1	3	主語を決める	○	○	○	○		主語の設定
Lesson 2	4	自動詞と他動詞　・SVC		○	○	○		間違えやすい自動詞と他動詞
Lesson 3	4	SVO　／　SVOO		○	○	○		主語＋動詞＋目的語／ O ＝句、節
Lesson 4	4	SVOC		○	○	○		主語＋動詞＋目的語＋補語
Lesson 5	4	it の用法	○	○	○	○		形式主語、形式目的語
後期中間考査 （考査まで　計19コマ）								
Lesson 6	3	時の表し方	○	○	○	○		「～する、～している、～した、～していた」
Lesson 7	4	助動詞①		○	○	○		can， will， have to， had better
Lesson 8	4	助動詞②		○	○	○		would, must, 助動詞＋ have ＋ 過去分詞
Lesson 9	4	受動態①		○	○	○		助動詞を含む、進行形・完了形の受動態
Lesson 10	4	受動態②		○	○	○		群動詞、知覚動詞の受動態
後期期末考査 （考査まで　計19コマ）								
年間総予定授業コマ数	39							

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教　　科	外国語	学　年	２　　年	教科書	なし
科　　目	総合英語講読	単位数 (年間予定コマ数)	２ （７８）	副教材	TREASURE HUNT New Edition ４
科 目 概 要	これまで学んできたことを基にして、リスニング問題を含めた総合演習問題に取り組んでいく。				
到 達 目 標	様々なジャンルの内容の文章を読みながら、読解力をつけていくと同時に聞く、話す、書く技能を授業内でバランスよく身につけていくことを目標とする。				
授業の進め方	長文読解を含めた総合問題演習を中心に進め、必要に応じて小テスト（確認テスト）を実施する。				
留 意 事 項	辞書、ノートを用意し、予習、復習をしっかり行うこと。				
家 庭 学 習	重要な英文は声に出して何度も読み、さらにその文を暗記して書けるようにしておくこと。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
A．関心・意欲・態度	授業内の言語活動への参加	２０％	個人（ペア）の積極的な取り組み
B．表現の能力	自分の考えを口頭、文章でまとめて発表	２０％	相手に理解してもらえるための表現上の工夫
C．理解の能力	まとまった英文内容を大まかに把握	２０％	リスニング演習問題、内容確認テスト
D．知識・理解	英文を通して学んだことの背景知識の理解	４０％	筆記テスト

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D		
１．オリエンテーション	１							
２．物語の展開をつかむ	４	文型および時制の使い方を理解する	○			○		登場人物の行動、感情を表す表現をまとめ理解できる
３．同意表現を把握する	４	助動詞の使い方を理解する		○		○		同じ内容を異なった表現で表されていることが理解できる
４．段落の構成をつかむ	４	受動態の使い方を理解する			○	○		段落ごとの主題をつかんで読み進めていくことができる
５．速読演習	４	不定詞の使い方を理解する	○			○		限られた時間で各段落の内容をつかむことができる
６　指示語の理解	４	動名詞の使い方を理解する		○		○		指示語を理解することにより文章の正確な理解につなげることができる
７出来事の流れをつかむ	４	不定詞・動名詞の使い方を理解する			○	○		話のカギとなる動詞に着目し、出来事の展開をはっきり理解することができる
８　文章のテーマをつかむ	５	分詞の使い方（付帯状況）を理解する	○			○		段落ごとの主題を把握しながら英文全体のテーマを把握することができる
９比較されているものを見抜く	５	関係代名詞の使い方を理解する		○		○		比較された文章のそれぞれの特徴をつかみ、対比することができる
１０　速読演習	５	関係副詞の使い方を理解する			○	○		限られた時間で各段落および全体の内容をつかむことができる
１１　筆者の考えをつかむ	５	比較（比較級、最上級）の使い方を理解する	○			○		読者に問いかけている内容を意識しながら読むことができる
１２　トピックセンテンスを探す	５	比較の慣用表現を理解する		○		○		主題文とその内容を説明する具体例を把握することができる
１３文章の展開をつかむ	５	仮定法の使い方を理解する			○	○		テーマとなる語をおさえながら文章の展開をつかむことができる
１４段落の要旨をつかむ	５	仮定法の慣用表現を理解する	○		○			繰り返し使用されるキーワードを基に各段落の要旨をつかむことができる
１５速読演習	５	前置詞の使い方を理解する		○		○		限られた時間で設問の趣旨をとらえ答えを導くことができる
１６具体例の特徴をおさえる	５	接続詞の使い方を理解する			○	○		具体例を表している前後の内容に気をつけながら全体の内容をとらえることができる
１７まとめ	８	今までに習った重要事項の内容を確認する。		○		○		総合問題演習と応用問題に取り組み、理解できる

【基本情報】

教　　科	外国語	学　年	２年	教科書	Perspective English Communication Ⅱ New　Editon（第一学習社）
科　　目	ＳＳ英語Ⅱ a ＜コミュニケーション英語Ⅱ分野＞	単位数 (年間予定コマ数)	４ (156)	副教材	新ユメタン１（アルク）
科 目 概 要	Communication English Ⅰ及び、英語表現Ⅰで学んだことを基礎にして、聞く・話す・読む・書くといった言語活動を授業内で実施し、定着を図る。				
到 達 目 標	①教科書、単語集に出てくる単語を身につける。 ②教科書に出てくる文法項目を使用して、自分の考えや本文の大まかな内容を英語で表現できる。 ③教科書の英文について、Questions に答えながら概要を理解することができる。 ④教科書の英文の内容・テーマについて自分の意見を英語で表現することができる。 ⑤教科書以外の英文について、品詞に着目しながら、英文の構造を理解できる。				
授業の進め方	上記の到達目標①～⑤に沿う形で授業を進めていく。 ・授業の冒頭に単語集を使って、英単語・フレーズの音読練習を実施（単語テストを週１回実施）…① ・ハンドアウトを配布し、教科書の英文を要点をとらえながら学習…②③④⑤				
留 意 事 項	・単語集、教科書、英和辞典、ハンドアウト等の活用。 ・配布されるハンドアウトの保存。 ・ペアワークまたはグループワークの取り組み。				
家 庭 学 習	**必ず家庭学習の時間をとり、英語の家庭学習を習慣化していくこと。** ・指示された内容を確実に家庭学習の中で行っていくこと。 ・単語学習／復習　～　単語集の練習に毎日最低２０分＋授業の復習に最低３０分＝毎日最低５０分間を確保すること。 （★復習は上記の到達目標①~⑤の内容をその日の授業で実施した内容に合わせて行う） ・２年生のこれからの１年間で英語の学力をほぼ完成させるつもりで取り組むこと。 ・英語検定試験は、準２級、２級、準１級を目指して取り組むようにすること。				
備　　考	・この授業は週４コマ実施する（年間総授業数１５６コマ）。				

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
A．コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワーク・グループワーク等の活動に積極的に取り組んでいるか。	２０％	授業時の活動状況
B．外国語表現の能力	教科書の文法項目を使用した英文の作成を適切に行うことができるか。	３０％	ハンドアウト 定期考査
C．外国語理解の能力	教科書・単語集の英単語を身につけて、教科書本文、及び補助読解テキストの英文の概要を理解できるか。	３０％	小テスト（単語テスト）、ハンドアウト 定期考査（Q&A ／内容把握） 休み明け等の課題提出／休み明けテスト（春・夏・冬）
D．言語や文化についての知識・理解	教科書本文で取り上げられテーマに関わる内容・背景知識を理解し意見や感想を表現できるか。	２０％	ハンドアウト 定期考査

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
Lesson 1 A Hunger for Knowledge	１４	・独学で発電方法を学んだ少年に関する英文を読んで，学習することの意義について考えさせる。 ・生徒が今までに学んできたことの活用方法を自ら考えさせる。	○	○	○	○	With …などが条件を表す仮定法，同格の that を理解し，文を作ることができる。
Lesson 2 The Mission of the Olympics	１４	・オリンピックの歴史や意義，ソチオリンピックでの感動的なエピソードとオリンピックにおける「おもてなし」の精神について読み取らせる。 ・オリンピックの意義と世界平和・国際協調の関連について自ら考えさせる。	○	○	○	○	未来完了形，完了動名詞を理解し，文を作ることができる。

前期中間考査 （ここまで２９コマ）	１						
Lesson 3 Amazing Tool Users	１４	・動物による道具使用の多様性とその特徴を読み取らせる。 ・動物の知能についての興味付けを行い，その他の例について自ら考えさせる。	○	○	○	○	仮定法を含む表現，否定語＋倒置を理解し， 文を作ることができる。
Lesson 4 Khaled Reshad —— A Doctor Across Borders	１４	・レシャード・カレッド医師が医師を志すきっかけとなった2つの出来事や，日本・アフガニスタン両国での医療活動について読み取らせる。 ・レシャード医師が考える真の医療について理解し，医療のあり方について自ら考えさせる。	○	○	○	○	be　to-不定詞，前置詞＋関係代名詞を理解し， 文を作ることができる。
前期期末考査 （ここまで２９コマ）	１						
Lesson 5 Lost and Wasted	１４	・食糧損失・食糧廃棄の理由やそれが及ぼす影響について読み取らせる。 ・食糧損失や食糧廃棄を減らすための世界での取り組みを知り，そうしたことに関して私たちの日常生活でできることについて自ら考えさせる。	○	○	○	○	独立分詞構文，複合関係詞を理解し， 文を作ることができる。
Lesson 6 Taro's Suns Look Toward World Peace	１４	・岡本太郎氏の来歴や，戦争に対する考え方が自らの作品に与えた影響を読み取らせる。 ・岡本氏の創作についての興味付けを行い，また，それが世界に与えている影響について自ら考えさせる。	○	○	○	○	・ 動名詞の意味上の主語，動名詞（受動態）を理解し， 文を作ることができる。
Lesson 7 Machu Picchu —— City in the Clouds	１４	・マチュピチュ発見までの経緯と，遺跡群の特徴を読み取らせる。 ・世界の遺跡の発掘物の所有権について自ら考えさせる。	○	○	○	○	完了形の分詞構文，主語が条件を表す仮定法を理解し 文を作ることができる。
Lesson 8 The Little Rock Nine	１４	・1950年代の人種差別についてのアメリカ国民の考えと，Little Rock Central High Schoolでの出来事が社会に与えた影響を読み取らせる。 ・人種差別問題への興味付けを行い，現在ではそれは完全に根絶されたのかについて自ら考えさせる。	○	○	○	○	with ＋名詞＋分詞など，仮定法現在を理解し， 文を作ることができる。
後期中間考査 （ここまで５７コマ）	１						
Lesson 9 A Long Voyage for Friendship	１４	・エルトゥールル号遭難事件とトルコ航空機による日本人救出劇の関連性，山田寅次郎の活躍，エルトゥールル号発掘調査について読み取らせる。 ・エルトゥールル号遭難事件をきっかけにはじまった日本とトルコの交流をもとに，真の国際交流について自ら考えさせる。	○	○	○	○	進行形（受動態），完了不定詞を理解し， 文を作ることができる。
学年末考査 （ここまで５７コマ）	１						
科学英語Ⅱ	２３		○	○			●３年次の課題研究英語発表会に向けた取り組みを行う ・各班の論文の英語への翻訳作業 ・英語によるプレゼンテーションの基礎的なテクニックの学習

【基本情報】

教　　科	外国語	学　年	２　年	教科書	
科　　目	ＳＳ英語Ⅱｂ （英語表現Ⅰ分野）	単位数 (年間予定コマ数)	１ （７８）	副教材	Revised Vision Quest　English Expression Ⅰ　Advanced （啓林館） 基礎からはじめる英作文　Active Writing（啓林館） 読んで聴いて　速読力アップ　LR ３（いいずな書店）

科 目 概 要	基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことが出来るようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養うことをねらいとしている科目である。
到 達 目 標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
授業の進め方	・ 各レッスンのモデル会話文を通して、発音・イントネーション、重要表現、文化背景等について学習する。また、文法事項を体系的に学習し、練習問題等で確実に身につけ、応用問題への基礎固めをする。具体的には ・予習していることを前提に授業を進める。進むペースが速いので家庭での予習・復習が必ず必要となる。また、わからないところは授業中及び授業後に積極的に質問をすること。 ・リスニングやスピーキングの基礎になる音読練習を重視する。その意味を理解して積極的に声を出すこと。 ・Expressing で自分のことや自分の周りのことを英語で言えるようトレーニングする。間違いを恐れないで意欲的に取り組むこと。
留 意 事 項	・音読練習やペアワークでは積極的に大きな声を出すこと。 ・予習・復習といった家庭学習を確実に行うこと。また毎回課題を出すので、正確・丁寧に行い、期日に遅れないよう取り組むこと。課題の提出については評価（成績）の１部となる。 ・ノート、筆記用具、辞書を必ず持参すること。もし、忘れ物をした場合は事前に申し出ること。 ・プリント等もたくさん出すので、紛失のないようファイルを用意して保管すること。 ・休み時間のうちに授業準備をしておき、チャイムと同時に学習できる体勢を整えておくこと。
家 庭 学 習	・最低でも１時間の授業で進む所までは予習をすること。モデル会話文は英文の意味を確認したら、３回以上は音読　練習をすること。グラマーの解説文をよく読み、エクササイズの問題を解くこと。その際、わからないところは必　ずチェックして、授業で確認すること。復習ではやはり音読練習を行い、解説文→問題といった具合に再度学習事項　の確認をすること。予習→授業→復習で３回同じ部分の学習をするということを習慣づけること。 ・授業ではリスニングや音読練習の時間を十分にとることができないので、特に、リスニングについては、ラジオ・テレビの英会話番組を、また、単語集付属のＣＤ等を活用し自ら学習すること。
備　　考	この科目は２年間で履修する。

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．　関心・意欲・態度	・モデル会話に関心を持ち聞き、発話しようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。	10 ％	授業中の活動・発表
Ｂ．表現の能力	・モデル会話や例文を英語らしい発音で発話することができる。 ・自分や周りのことを話すことができる。 ・学んだ文法を使って、文章を書くことができる。	5 ％	授業中の活動・発表・課題の提出
Ｃ．理解の能力	・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 ・モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 ・パラグラフの構成を理解している。	5 ％	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査
Ｄ．知識・理解	・モデル会話に関する英文を聞き、正しい解答を選ぶことができる。 ・モデル会話を英語らしい発音で読むことができる。 ・パラグラフの構成を理解している。	80 ％	授業中の活動・課題の提出・小テスト・定期考査

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価					到達目標
			A	B	C	D	E	
Lesson 9 Rules are for everyone's comfort and safety	11	＜ルール＞ 変わる音 賛成する。反対する。 分詞	○	○	○	○		・分詞を使って適切に英文を書くことができる。 ・特定の音の連続によって音が変化する英文を聞いて理解することができる。
Lesson 10 A must-have item for those who run shops	12	＜文化＞ 聞こえなくなる音 説明する。 関係詞		○	○	○		・関係詞を使って適切に英文を書くことができる。 ・聞こえなくなる音があるフレーズや英文を聞いて理解することができる。
前期中間考査 （考査まで　23コマ）	1							
Lesson 11 I believe everything has a positive side	9	＜社会問題＞ 文の中での強調 意見を述べる。主張する。	○	○	○	○		・比較の表現（原級・比較級・最上級）を使って適切に英文を書くことができる。 ・文脈を理解し、文の中での強勢を聞き取ることができる。
Lesson 12 I wish my father were more understanding.	8	比較 ＜悩み事＞ アメリカ英語とイギリス英語 助言する。提案する。 仮定法		○	○	○		・仮定法を使って適切に英文を書くことができる。 ・アメリカ英語かイギリス英語かを判断することができる。
前期期末考査 （考査まで　計17コマ）	1							
Lesson 1	3	主語を決める	○	○	○	○		主語の設定
Lesson 2	4	自動詞と他動詞　・SVC		○	○	○		間違えやすい自動詞と他動詞
Lesson 3	4	SVO　／　SVOO		○	○	○		主語＋動詞＋目的語／ O ＝句、節
Lesson 4	4	SVOC		○	○	○		主語＋動詞＋目的語＋補語
Lesson 5	4	it の用法	○	○	○	○		形式主語、形式目的語
後期中間考査 （考査まで　計19コマ）								
Lesson 6	3	時の表し方	○	○	○	○		「～する、～している、～した、～していた」
Lesson 7	4	助動詞①		○	○	○		can， will， have to， had better
Lesson 8	4	助動詞②		○	○	○		would, must, 助動詞＋ have ＋ 過去分詞
Lesson 9	4	受動態①		○	○	○		助動詞を含む、進行形・完了形の受動態
Lesson 10	4	受動態②		○	○	○		群動詞、知覚動詞の受動態
後期期末考査 （考査まで　計19コマ）								
年間総予定授業コマ数	39							

※このシラバスは、あくまで予定を示したもので、状況により時間配分や内容などを変更することがある。

【基本情報】

教　　科	探究	学　年	２年	教科書	なし
科　　目	課題探究	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	なし
科 目 概 要	１年次で実施した「探究基礎」をもとに，自らテーマを設定して探究活動を理数科・普通科共通して行う。				
到 達 目 標	・課題に対して自律的に調査研究活動を行い、結果を導き出すことができる。 ・仲間と協働して活動し、全体に対して発表することができる。 ・				
授業の進め方	・テーマに基づいてグループで活動する。				
留 意 事 項	・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。				
家 庭 学 習	・研究を進めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めたり、大学や専門機関と積極的に連携することを推奨する。				
備　　考	普通科はクラスに関わらず、共通したテーマでグループを作り活動する。 理数科は理数に関わるテーマで「ＳＳ研究Ⅱ」と連携しながら独自のグループで活動する。				

【評価の方法】

観　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	グループで協力して積極的に活動をしようとしている。	２５％	活動ごとのレポートおよび発表会での発表によって評価する。
Ｂ．思考・判断・表現	論理的に物事を考え､考察しようとしている。	２５％	
Ｃ．技能（資料活用能力）	情報や活動内容をまとめたり、内容をわかりやすく発表する。	２５％	
Ｄ．知識・理解	設定したテーマに関わる知識や情報を理解しようとしている。	２５％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
課題探究	２８	グループごとに自ら設定したテーマについて調査研究活動を行う。	○	○	○	○	設定したテーマに基づいて、探究活動を行う。 グループで積極的かつ計画的に研究を進める。 （活動レポートによる評価）
発表会準備	６	研究テーマをもとに発表用のポスターまたはプレゼンテーションを作成する。	○	○	○	○	研究内容を論理的に分析しまとめる。 「伝える」ことを意識したポスターやプレゼンテーションを作成する。（作成したポスター、プレゼンテーションの評価）
課題探究発表会	７	発表会で発表する。	○	○	○	○	自らの発表をしっかり行うとともに、他の発表に対してもしっかり耳を傾け積極的に理解しようとする。 （発表姿勢による評価、生徒自信による評価）
個人論文作成	１	個人論文を作成する。	○	○	○	○	個人論文の作成および活動の振り返りを行う

【基本情報】

教　　科	スーパーサイエンス	学　年	２年	教科書	なし
科　　目	スーパーサイエンス（ＳＳ）研究Ⅱ	単位数 (年間予定コマ数)	1 (39)	副教材	なし
科 目 概 要	①課題研究基礎実験：理数に関わるテーマで「課題研究」を行う上で必要な実験や情報分析を行う。 ②ライフサイエンス探究：「保健」分野に関わるテーマを設定し、グループで内容を学習し発表する。				
到 達 目 標	①「課題研究」の内容を検証し、中身を深める。 ②グループで情報を集めて共有し、全体で発表することで、「保健」分野の知識・理解を深める。				
授業の進め方	・課題研究基礎実験では、「課題探究」の授業と連携してグループごとに計画を立てて実施します。 ・ライフサイエンス探究では、グループごとにテーマについて調査をしてまとめ、発表します。最後に、学習内容が理解できたかを見るための確認テストを実施します。				
留 意 事 項	・グループ内での活動を重視し、お互いに協力して活動する。 ・グループにかかわらず、積極的に意見を交わしたり議論をする。				
家 庭 学 習	・研究を進めるに当たって、必要な情報や資料を積極的に集めたり、大学や専門機関と積極的に連携することを推奨する。				
備　　考					

【評価の方法】

観　　点	ポイント	割　合	評価項目
Ａ．関心・意欲・態度	「課題研究」や「ライフサイエンス探究」にかかわる活動に積極的かつ意欲的に取り組んでいるか。	２５％	「課題研究基礎実験」では活動ごとのレポートによる評価 「ライフサイエンス探究」においては作成した資料の評価、発表の評価、確認テストによる評価。
Ｂ．思考・判断・表現	「課題研究」や「ライフサイエンス探究」にかかわる活動において､論理的に思考ができ、さらに適切に表現ができているか。	２５％	
Ｃ．技能（資料活用能力）	「課題研究」や「ライフサイエンス探究」にかかわる活動において、技能の習得及び資料の活用が適切になされているか。	２５％	
Ｄ．知識・理解	「課題研究」や「ライフサイエンス探究」にかかわる活動に科学的知識等の理解がなされているか。	２５％	

【年間計画】

単　元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
課題研究基礎実験	２１	課題研究に関わる実験・調査	○	○	○	○	設定したテーマに基づいて、計画的に検証実験や調査・分析を行う。（活動レポートによる評価）
中間報告会準備	4	課題研究の中間報告用ポスター作成	○	○	○	○	活動にもとづいたポスターを作成する。 （ポスターによる評価）
中間報告会	3	課題研究の中間報告	○	○	○	○	中間データをまとめて発表する。
ライフサイエンス探究	１１	保健分野にかかわるグループ学習	○	○	○	○	保健分野のテーマについて理解を深める。 （レポート・資料の作成） 理解した内容を発表し、評価する。 （発表の評価、生徒による評価） 内容がしっかり理解されたかを確認する。 （確認テストによる評価）